

養護教諭養成課程の学生が養護教諭に求めるもの —小学校教員の意見を踏まえて—

佐藤 恵子*¹・福本 美織*²

*¹九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807--8586)

*²佐世保市立相浦西小学校大崎分校 佐世保市大潟町467番地 (〒858-0926)

(2017年5月29日受付、2017年7月10日受理)

要 旨

社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康に大きな影響を与えており、養護教諭の健康相談や学内外でのコーディネーターの役割が一層重要となっている。養護教諭養成機関としては専門的力量をいかに養成していくかが課題となる。本学の養護教諭養成課程の学生は、2年次に3週間の養護実習を行っているが、学生が養護教諭として求められる能力や養護教諭を目指す上で養護教諭の資質として不足している点をどの程度認識しているかは明らかではない。今回、養護教諭養成課程の学生や教員が養護教諭に求めるものや、養護実習を通して養護教諭を目指す上で養護教諭の資質として学生に不足している点を明らかにすることを目的に調査した。

その結果、養護教諭に求めるものは、子どもの状況を判断する豊富な知識や対応力などの実践的な能力と話しやすさや相談しやすさなどの受容・共感的態度であった。また、学生が養護教諭を目指す上で不足している点は、実践的な能力であった。学生の実践的な能力を強化できる授業内容を考えることが課題としてあげられた。

キーワード：養護教諭 能力 養護実習

1. はじめに

養護教諭の職務の拠点は保健室であり、様々なニーズを抱えた児童生徒へ専門性を活かしながら対応する。しかし、近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康に大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、児童虐待などの心の健康問題、アレルギー疾患、性に関する問題や薬物乱用、感染症など新たな課題が顕在化している¹⁾。

平成9年保健体育審議会答申では、養護教諭の新たな役割として、養護教諭のヘルスカウンセリング(健康相談活動)が一層重要な役割を持っている。養護教諭については健康診断、保健指導、救急処置などの従来の職務に加えて、専門性と保健室の機能を最大限に生かして、心の健康問題にも対応した健康の保持増進を实践できる資質の向上を図るとある²⁾。養護教諭を対象に健康相談を行う上での問題点や悩みについて行った調査では「心の健康問題の増

加・多様化」が高くなっている³⁾。さらに、学級担任や学校医、スクールカウンセラーなどの学内における連携、学外の医療従事者や地域の関係機関との連携を推進するコーディネーターの役割もある。このように、養護教諭の職務は多岐にわたり必要とされる能力も増え、養護教諭養成機関としては専門的力量をいかに養成していくかが課題となる。

本学の養護教諭養成課程の学生は、学内で学校保健学や健康相談、救急処置など学びを深めて2年次に3週間の養護実習を行っているが、学生が養護教諭として求められる能力や養護教諭を目指す上で養護教諭の資質として不足している点をどの程度認識しているかは明らかではない。そこで今回、養護教諭養成課程の学生が、養護教諭にどのような能力を求めているのか、養護実習を経験することで求めるものに変化があるのか、また、教員に養護教諭に求めるものを調査し、学校現場でどのような養護教諭が求められているのかを明らかにする。そして、学生に養護教諭を目指す上で不足している点を自覚させ、学内での授業内容を検討することを目的とする。

II. 研究方法

1 対象者

A短期大学の養護教諭養成課程2年生82人

S市の小学校教員 25人

2 調査時期

A短期大学 養護実習前 平成27年5月 養護実習後 平成27年6月

S市の小学校 平成27年6月

3 調査内容

1) 養護教諭に求めるものについて

- (1) 養護実習前後に学生が養護教諭に求めるもの
- (2) 養護教諭養成課程の学生が不足していると感じているもの
- (3) 教員が養護教諭に求めるもの

4 倫理的配慮

調査の実施にあたっては、「社会科学系の教育研究および事務的調査等に係る手続き」に基づき、学科会議の承認を得た。対象者に研究の趣旨と研究参加の自由意志の尊重について説明し、個人が特定されないようプライバシーを確保することやアンケートの管理に十分留意することを口頭および文書で十分に説明をし、承諾を得てアンケート調査を行った。

III. 調査結果

調査に対する人数と割合 (%) を示し、選択肢の回答で無記入があった場合はその数を外して集計を行った。選択肢のある質問の回答は、その割合表示は全選択肢に対する回答割合

を、複数回答可の質問の回答は全例数に対する回答割合をそれぞれ示した。回答割合は少数点第2位を四捨五入し少数第1位までを表している。

アンケートの有効回答数82名中80名（有効回答率97.6%）

1. 養護教諭に求めるものについて

(1) 養護実習前後に学生が養護教諭に求めるもの

養護教諭に求めるものを15項目（やさしい、話しやすい、包容力がある、明るい、手当が上手、知識が豊富、とっさの判断ができる、迅速な対応ができる、話を聞いてくれる、相談をしやすい、公平な態度である、常識がある、頼りがいがある、いつも保健室にいる、指導力がある）について実習前後で調査すると、実習前に「よくあてはまる」と回答した項目は「話しやすい」「相談しやすい」が各62人（77.5%）で最も多かった。次に「包容力がある」57人（71.3%）、「とっさの判断ができる」「迅速な対応ができる」が各56人（70.0%）、「頼りがいがある」54人（67.5%）、「やさしい」「話を聞いてくれる」が各53人（66.3%）、「公平な態度である」51人（63.8%）、「手当が上手」50人（62.5%）であった（図1）。

実習後に「よくあてはまる」と回答した項目は、「迅速な対応ができる」59人（73.8%）、「話しやすい」、「とっさの判断ができる」が各57人（71.3%）、「相談しやすい」55人（68.8%）、「話を聞いてくれる」53人（66.3%）、「手当が上手」、「頼りがいがある」が各51人（63.8%）、「知識が豊富」50人（62.5%）、「やさしい」、「包容力がある」、「公平な態度である」が各49人（61.3%）であった（図2）。

養護実習前後で比較すると、「よくあてはまる」と回答した学生の割合が増加した項目は、「知識が豊富」、「迅速な対応ができる」、「とっさの判断ができる」、「手当が上手」、「明るい」、「常識がある」であった。また、「よくあてはまる」と回答した学生の割合が減少したものは、「包容力がある」、「相談をしやすい」、「いつも保健室にいる」、「話しやすい」、「やさしい」、「頼りがいがある」、「公平な態度である」であった。

また、実習前後で「よくあてはまる」「あてはまる」の割合の合計と、「少しあてはまる」「あてはまらない」の割合の合計を比較すると、実習前は、すべての項目で「よくあてはまる」または「あてはまる」と8割以上の学生が回答し、その中でも、「明るい」、「知識が豊富」、「いつも保健室にいる」、「指導力がある」以外の11項目について9割以上の学生が回答していた。しかし、実習後は15項目すべての項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が減少し、「少しあてはまる」「あてはまらない」の割合が2割から3割に増加していた（図3・図4）

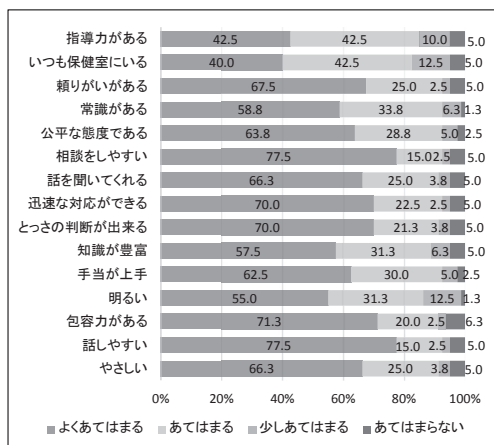


図1 養護教諭に求めるもの(養護実習前)(n=80)

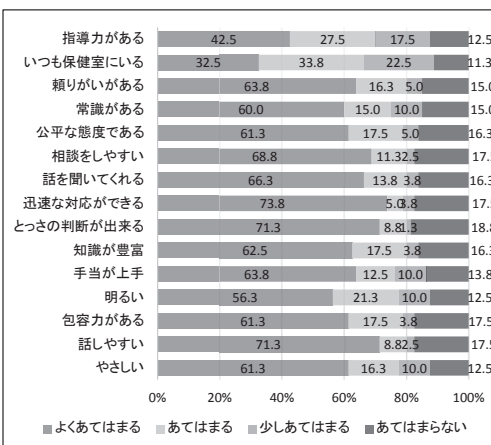


図2 養護教諭に求めるもの(養護実習後)(n=80)

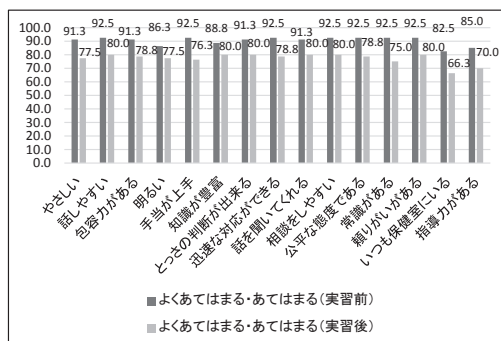


図3 養護実習前後の比較(肯定的意見)(n=80)

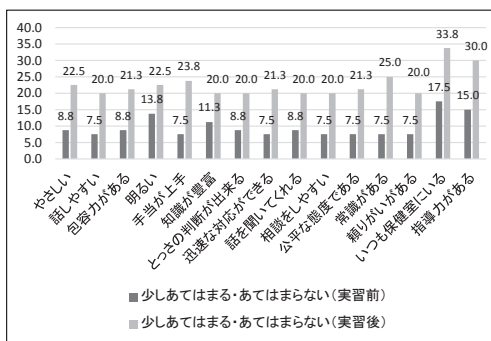


図4 養護実習前後の比較(否定的意見)(n=80)

(2) 養護教諭養成課程の学生が不足していると感じているものについて

「養護教諭を目指す上であなたが自分に足りていないと思うところがありますか。」の質問については、養護実習前は「はい」と答えた学生が72人(96.0%)、「いいえ」と答えた学生が3人(4.0%)であった(n=75)。養護実習後では「はい」と答えた学生が73人(100%)であった(n=73)。

自分に足りていないと思う項目を複数回答を求めたところ、実習前は「知識が豊富」60人(23.0%)、「とっさの判断ができる」49人(18.8%)、「迅速な対応ができる」、「指導力がある」が各36人(13.8%)、「手当てが上手」32人(12.3%)であった。実習後は、「知識が豊富」64人(19.5%)、「とっさの判断ができる」55人(16.8%)、「迅速な対応ができる」53人(16.2%)、「指導力がある」38人(11.6%)、「手当てが上手」34人(10.4%)であった(図5)。

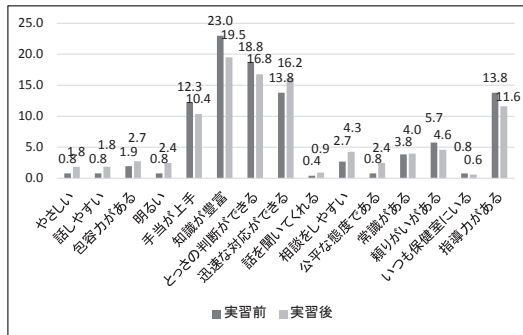


図5 養護教諭を目指すうえで不足しているもの
(実習前n=67実習後n=70)複数回答

「養護教諭を目指す上であなたが自分に足りていないと思うところがありますか。」の質問に対して「はい」と答えた学生へ「足りていないと思うところを改善しようとしていますか。」の質問をした結果、養護実習前では「はい」が61名(88.4%)、「いいえ」が8名(11.6%)であった(n=69)。養護実習後では「はい」67名(91.8%)、「いいえ」6名(8.2%)であった(n=73)。

(3) 教員が養護教諭に求めるもの

教員においても、学生と同じ「養護教諭に求めるもの」を尋ねると、「よくあてはまる」と回答した項目は、「迅速な対応ができる」19人(76.0%)で最も多く、順に「手当てが上手」18人(72.0%)、「知識が豊富」17人(68.0%)、「とっさの判断ができる」16人(64.0%)、「常識がある」、「話しやすい」が各14人(56.0%)であった(図6)。また、養護教諭に求めるものを具体的に記述で回答してもらったと表のような結果が得られた(表1)。

教員が「養護教諭に求めるもの」を「よくあてはまる」「あてはまる」の割合の合計と、「少しあてはまる」「あてはまらない」の割合の合計をみると、「やさしい」、「いつも保健室にいる」、「指導力がある」の項目に「少しあてはまる」「あてはまらない」の割合が2～3割を占めていた(図7)。

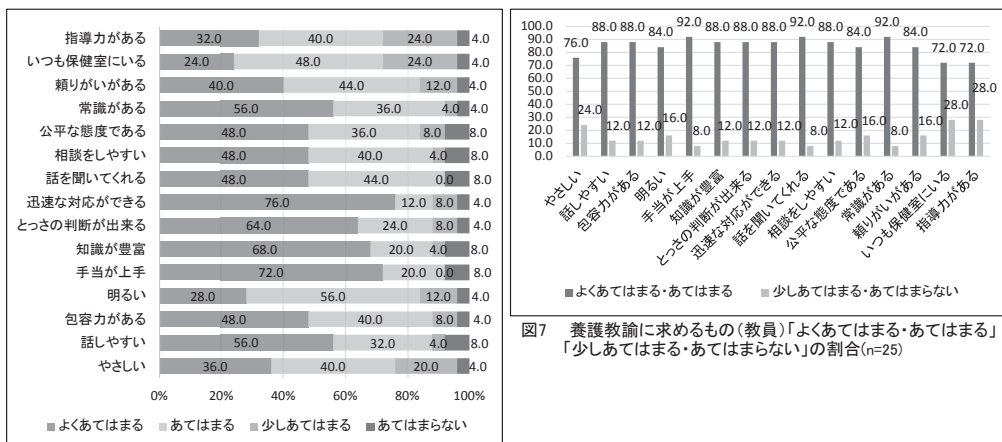


図6 養護教諭に求めるもの(教員)(n=25)

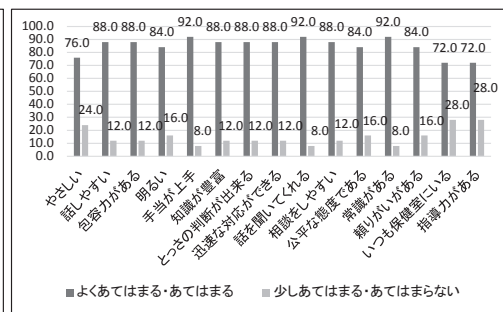


図7 養護教諭に求めるもの(教員)「よくあてはまる・あてはまる」「少しあてはまる・あてはまらない」の割合(n=25)

表1 教員の記述の回答 (n=25)

- ・児童だけではなく職員の心身の健康にも気づいて声をかけてくださる先生はとても素晴らしいし感謝したい存在です。
- ・児童・職員の健康保持に努めてくれる。児童・職員の心のケアも行ってくれる。
- ・職員との会話(情報交換)を密にする。養護教諭だけが情報をもっている場合がある。
- ・児童に関する情報を、先生方と共有できる。
- ・コミュニケーションがとれること。
- ・優しさと厳しさの両方を兼ね備えた方だと頼りにしたいと思います。
- ・やさしさ=甘いではなく時として揺らがない厳しさをもっていることも必要。
- ・児童にとっても職員にとっても安心できる保健室が理想。
- ・学校内で担任や部活動の顧問等とは異なる立場で児童理解に努めることができる。
- ・体力がある。
- ・予防やよびかけ(お便り)などを発信してくれる先生もありがたいです。

IV. 考察

1. 養護教諭に求めるものについて

養護教諭に求めるものについて、実習前は「話しやすい」、「相談しやすい」、「包容力がある」、「やさしい」、「話を聞いてくれる」の項目が「よくあてはまる」と6割以上の学生が回答しており、実習後もこの5項目は「よくあてはまる」と回答している学生が多い。健康相談が重要な役割を担っている現在、養護教諭に受容・共感的態度を求めていると考えられる。生活習慣の乱れ、いじめ、不登校などのメンタルヘルスに関する対応、アレルギー疾患、感染症など児童生徒の健康課題が多様化する中で、養護教諭が行う相談活動や対応力が求められている⁴⁾。また、実習前は「話しやすい」、「相談しやすい」、「包容力がある」の項目の次に求めていた「迅速な対応ができる」、「とっさの判断ができる」の項目を実習後は多くの学生が求めており、実習前には上位になかった「知識が豊富」が上位にあげられている。学生は、養護実習で多様な子どもに対応するには実践的な能力の不足を感じ、判断力や観察力が必要なこと、また判断や観察を行うには知識が必要なことを学んだ結果と考えられる。同様に教員においても「迅速な対応ができる」、「手当てが上手」、「知識が豊富」、「とっさの判断ができる」の項目が上位を占めており、実践的な能力を求めている傾向にあった。現役養護教諭が回答した中でも「迅速な対応ができる」を最も多く回答していた⁵⁾。養護教諭は学校現場において疾病やけがの対応については、中心的な役割を占め、養護教諭の対応は学校全体の児童生徒の命に関わる。このことから、重要なものとして救急処置の技術や状況判断に関する回答が多かったことが推測される。養護教諭の専門性として一番に果たすべきことは、救急処置であり、医療機関での受診を含め、養護教諭が傷病者の症状や状態を的確に見極め、適切に対処する必要があると言われている⁶⁾。子どもの安全を守り、また生命を守ることにつながる能力と考えられる。実習前後の変化で気になる点は、養護教諭に求めるもので「あてはまらない」「少しあてはまる」の割合が実習後に大きく増加している点である。

特に「あてはまらない」と回答した割合が10%以上増加したものが15項目中12項目になっている。救急処置に必要と思われる項目において「あてはまる」と回答している割合が増えているにも関わらず、「あてはまらない」と回答した割合がそれ以上に増加している。養護実習での体験で必要性を感じた学生と感じなかった学生に分かれる傾向にあるが、その理由までは確認できていない。

教員が養護教諭に求めるもので「やさしい」、「いつも保健室にいる」、「指導力がある」の項目に「少しあてはまらない」「あてはまらない」と回答した教員が2～3割占めていた。教員の自由記述に「やさしさと厳しさを兼ね備える」「揺るがない厳しさ」という言葉があるため、教員としてやさしいだけでなく、厳しさを兼ね備えた養護教諭を求めていると考えられる。また、養護教諭の活動の場が保健室に限られるものではなく、教室に入り込み食物アレルギーや糖尿病などの疾患を持った児童生徒に指導する機会が増えているので、同時に「指導力」も求められていると考えるが、養護教諭以外の教員に養護教諭が児童生徒への教育的な指導を職務として日常的に行っていることを認識していない部分があると考えられる。また、教員の自由記述に「児童・職員の心身の健康保持に努める」とあり、児童生徒だけでなく教員の健康管理についても養護教諭に求めていることが伺える。そのため、子どもの疾患や悩みに対応する能力だけでなく、生活習慣病などの成人に多い疾患などの知識やストレスの対処方法など心身両面のサポートも要求されると考える。そして、「児童に関する情報の共有」をあげており、教員との連携を強化するためにコミュニケーション能力も必要とされる。学級担任、管理職やスクールカウンセラーなどの学内だけでなく、医療機関や地域の関係機関との情報交換ができるコーディネーターの役割を果たすためにもコミュニケーション能力は重要視される。

2. 養護教諭養成課程の学生が養護教諭を目指す上で不足している点について

学生が不足していると感じている項目を実習前後で比較すると、ほぼ同様な傾向がみられたが、「知識が豊富」、「とっさの判断ができる」、「迅速な対応ができる」、「指導力がある」、「手当てが上手」の上位5項目を比較すると「迅速な対応ができる」は増加していたがそれ以外の4項目は減少していた。また、実習前に回答が少なかった「やさしい」、「話しやすい」、「包容力がある」、「明るい」、「話を聞いてくれる」、「相談しやすい」、「公平な態度である」、「常識がある」の項目がやや増加している。学生が回答した項目数も、実習前が261項目、実習後が328項目で1.26倍に増加しており、学生一人当たりの項目数が3.9項目から4.7項目に増加している。これは、養護実習を経験することで視野が広がり、自分を振り返る機会を得たことや実習前は学生に身に付いていると思っていたことが、養護実習の場で子どもたちと対応する中で、うまく子どもたちと対応できない場面に遭遇し感じたことではないかと推測できる。子どもへの複数対応や特定の子どもの関わりが多くなるなど、子どもが納得できる対応ができない経験をしたとも考えられる。また、上位5項目をみると、救急処置に関する項

目が多くみられ、机上学習で学んでいても現場では対応できなかったことも考えられる。同じ学生にとって看護技術のアンケートにおいても、学生が不足と感じたものに「疾患の知識」を80%以上の学生が答えていた⁷⁾。

以上より、養護教諭養成課程の学生は、子どもの状況を判断する豊富な知識や対応力などの実践的な能力や話しやすさや相談しやすさなどの受容・共感的な態度を養護教諭に求めており、学生が養護教諭を目指す上で養護教諭の資質として不足と感じている点とも一致している。学内では実践的な能力を高めるために具体的な事例を使い、実際にどのように対応したらよいかを考えさせ、また、対応するためには何が不足しているのかを学生自身が気づくような授業展開を考える必要がある。養護の教員を中心に看護学等の教員が連携して、学生の養護教諭としての資質を高める授業を展開する必要があると考えられる。

V. 結論

今回の研究結果から、次のことが明らかになった。

- 1 養護教諭養成課程の学生が養護教諭に求めるものは、子どもの状況を判断する豊富な知識や対応力などの実践的な能力と話しやすさや相談しやすさなどの受容・共感的態度である。
- 2 養護教諭養成課程の学生が養護教諭を目指す上で不足している点は、実践的な能力である。

VI. おわりに

本学の養護教諭養成課程の学生が養護教諭に求めているもの、養護教諭を目指す上で不足している点を調査した。今回の結果をふまえて、学生が不足と感じている実践的な能力を強化できるように授業内容を考え、学生の養護実習の学びが深まるようにしていきたい。

VII. 謝辞

本研究を進めるに当たり、ご多忙の中調査に協力していただきましたA短期大学の学生の皆様、S市の小学校の教員に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省、教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き、Available at: http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1309933.htm Accessed September 4, 2015
- 2) 保健体育審議会、「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツ振興の在り方について」(答申)、Available at: <http://www.mext.go.jp/>

b_menu/shingi/old_chukyo/old_hoken_index/toushin/1314691.htmAccessed
September 3, 2015

- 3) 木嶋春代、養護教諭の役割と現状について、心とからだの健康、2 (2016) 14-18
- 4) 牛島三重子、現代的な子どもの課題と学校が求める養護教諭への期待と提言、保健の科学、57 (2) (2015) 76-80
- 5) 橋口文香、坂田光恵、保健室観・養護教諭観からみた健康相談の在り方に関する研究—女子大生と現役養護教諭の比較調査より—、九州女子大学紀要、53 (2) (2017) 115-132
- 6) 4) 76-80
- 7) 佐藤恵子、吉本典子、養護教諭養成課程の学生に必要な看護技術 (第1報)、九州女子大学紀要、53 (1) (2016) 73-85
- 8) 後藤ひとみ、養護教諭の専門性をふまえた養護教諭養成のあり方と将来への展望、日本養護教諭教育学会誌、11 (1) (2008) 10-15

What students of the school-nursing course require of yogo teachers Based on the opinion of the elementary school teacher

Keiko SATO^{*1}, Miori FUKUMOTO^{*2}

^{*1}Department of Childhood Care and Education Kyushu Women's Junior College
1-1, Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

^{*2}Sasebo City Ainouranishi Elementary School Ohsaki Branch School
467, Ogata-tyo, Sasebo-shi, Nagasaki-ken 858-0926, Japan

Abstract

Students of the school-nursing course undergo practical training for three weeks in their second year, but it is unclear to what degree they recognize the capabilities required of yogo teachers and skills they lack to become a yogo teacher. This time, we have conducted a survey to reveal what students of the school-nursing course and teachers require of yogo teachers and what students lack to become a yogo teacher.

As a result, it has been revealed that what they require of yogo teachers are practical capabilities such as breadth of knowledge to judge a child's condition, ability to respond, etc., and receptive and empathic attitudes such as being easy to talk to, easy to consult with. What students lack to become a yogo teacher are practical capabilities. It is suggested that curriculum to enhance the students' practical capabilities needs to be considered.

Key Words: yogo teacher, capabilities, practical training